

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2017年2月7日		
所属学部	法政経学部		
所属学科・専攻	法政経学科政治学・政策学コース		

1. 留学先について

留学先大学名	インドネシア大学			
留学先所属学部等	Faculty of Economics and Business			
留学期間	出発日 2016年8月7日	入学日 2016/8/11日	修了日 2016年12月23日	帰国日 2017年1月31日
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	<input checked="" type="checkbox"/> その他(<u>ホームステイ</u>)	
	通学時間	20分/二時間(ホームステイ)		<input type="checkbox"/> On campus
	通学方法	徒歩 電車、自家用車(ホームステイ)		
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> () 人部屋 <input type="checkbox"/> その他()		
	共有スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 完全個室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他()		
食事	自炊 80 %	学食 10 %	外食 10 %	その他 % () * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	OSSMA付帯型海外旅行保険		
	大学指定の保険(名称)	OSSMA	<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入	
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)			
	羽田 ⇄ クアラルンプール⇄ジャカルタ(飛行機) ⇄ デポック(車)			

2. 留学にかかった費用について

総費用	575000	円	* おおよそでかまいません。			
出処						
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円	<input type="checkbox"/> その他	円
援助	<input type="checkbox"/> 両親	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/> JASSO	円	<input checked="" type="checkbox"/> その他名称(トビタテ留学JAP AN日本代表プロ)	800000		円
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他()			円

2-1. 財政管理の方法

渡航時 <input checked="" type="checkbox"/> 現金	円	<input type="checkbox"/> その他()	円
留学中 <input type="checkbox"/> 海外送金	<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他()	

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	海外送金
住居にかかった費用	現金払い
その他	ほぼ現金払い、時々デビットカード

2-3. 内訳

*外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	Rp	7500000	76000	円
海外旅行保険			76000	円
OSSMA			18000	円
査証・在留許可証			18000	円
住居	Rp	12400000	124000	円
食費	Rp	4000000	40000	円
通学に要する交通費	Rp	500000	5000	円
教科書、教材費	Rp	1000000	10000	円
その他大学に支払った経費			60000	円
光熱費	Rp	1300000	13000	円
その他 (通信費)	Rp	5500000	55000	円
その他 (日用品)	Rp	1000000	10000	円
その他 (予防注射)			70000	円
その他 ()				円

3. 学業面 *必ず、後日、留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 * 全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ^{ex.} 正規、聴講	単位数	単位互換認定申請の有無
1 Business communication	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
2 Development Economics	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 Economics of Poverty	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 Natural Resources and Environmental Economics	短期プログラム	3	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
5 Indonesian I	正規(他学部)	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 Organizational Behavior	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
9			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
10			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

* 登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

留学生は一般学生と、日程や窓口が少し異なります。
 まず8月11日にオリエンテーション、12日に個人登録(学生証作成)があります。12日に「SIAM NG」というサイトの使い方の説明があります。
 その後シラバスの一部と授業一覧が配布されます。シラバスにない授業や、一般学生向けに英語で開講されているものもあるので、情報収集が大事です。シラバスに受講条件も載っています。
 15日から19日までが学部の授業登録期間で、「SIAM NG」からオンライン登録します。
 29日からセメスターが始まります。開始一週間までは変更が可能です。その場合はA棟一階の留学生専用窓口に行きます。専用の紙をもらい、記入して提出すると、窓口の担当者がオンライン入力してくれます。
 最初の週は混乱が相次ぎ、授業がキャンセルされたり、開講される曜日が変わったり、先生が代わったりと、なかなか思い通りにいきません。さらに、私が在籍したセメスターは、SIAM NGで留学生のみ情報が表示されませんでした。周りの学生に聞くのが一番良いです。

3-2. 授業内容、方法に関して

教科によって授業の進め方は様々です。先生がプレゼンテーションをする場合もあるし、生徒がグループで発表するだけ、というものもあります。教科書を使用する授業では、だいたい一回の授業で一章分進み、1セメスターで一冊終わらせます。教授がレクチャーするというより、個人で考え、授業で補足するという形式です。知識量はかなり多いです。インドネシアにフォーカスした授業もありますし、世界的なスタンダードを学ぶ授業もありました。
 中間試験までは個人作業が多かったですが、期末試験まではグループワークが増えました。毎週の宿題もグループでやるものが多いです。
 ほぼすべての科目で最終プロジェクトがあり、グループでのプレゼンやレポートを作成します。期末試験の勉強と並行してやるので、少し大変でした。

3-3. 語学力について

授業が英語で行われるので、リスニング、リーディングは確実に上達します。また、ディスカッションやレポート作成もあるので、スピーキングやライティングも上がります。

周りの学生の語学力は非常に高く、ネイティブとほぼ同等に話せます。

私の場合、まだまだ流暢ではありませんが、英語で物事を説明できるようになりました。また、日本語と英語で考えるのではなく、英語でそのまま思考できるようになりました。

やはり自分からコミュニケーションをとろうとしないと、英語に囲まれていても上達しないと感じました。留学後半はインドネシア人の友達と過ごす時間が多く、ほとんど英語で話していたので、良いスピーキング練習になりました。

3-4. 図書館など学内施設について

広大なキャンパスの中には湖が9つあり、ほとんどが森です。

中央図書館はかなり大きく、古い文献から新しいものまであります。通常、学生は図書館で教科書を借り、コピーして使っています。パソコン室、自習室やカフェ、コンビニも中にあります。裏にモスクがあります。

各学部にはカフェテリア(フードコートに近い)があり、夜まで空いています。

経済学部にも図書館があります。蔵書は経済・ビジネスに関するものに限ります。地下に夜中まで勉強できる部屋があります。

場所によっては通じませんが、キャンパス全体にwifiも通っています。

3-5. その他

4. 生活面 *気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

4-1. 住居について

アパートは大学の目の前にあり、通うのに便利でした。本屋、コンビニ、駅、ショッピングモールも歩いていける距離にあります。私は11階に住んでいたのですが、眺めがよかったです。

一人暮らし用に家具が備え付けになっており、冷蔵庫、テレビ、大きなベッドがありました。

洗濯はクリーニング屋があちこちにあり、2kg120~150円くらいなので、毎回頼んでいました。

虫も出ます。虫よけなどを持って行って対策はしましたが、カ、アリ、ヤモリがよく出ました。ゴキブリは見ませんでした。

セキュリティは微妙でした。インドネシアでは普通のことですが、セキュリティドアは始終壊れていましたし、ガードマンも人を止める、ということはあまりしませんでした。

ホームステイ先はジャカルタの東、ブカシでした。UIまで二時間のところ。一軒家で、伝統的なジャカルタ近郊の住宅でした。駅まで4~5kmあるので、電車に乗るときはバイクに乗せてもらっていました。

友達の妹の部屋に住まわせてもらい、時間があるときには友達と三人でよく遊んでいました。

4-2. 食生活について

アパートでは自炊をしていました。日本から調味料を持参しました。近くのモールで携帯用コンロと水のディスペンサー、その他のキッチングッズを買い、野菜炒めや煮物を作っていました。週の半分以上は弁当持参で、あまり外で食べませんでした。

食材は徒歩900mほどのモールの地下にあるスーパーマーケットで買ったり、友達にtraditional marketに連れて行ったりしてもらっていました。インドネシアならではの食材も多いですが、日本の野菜もあります。だいたい量り売りです。

水は、水道水が飲めないなので、ディスペンサーを使っていました。AQUAのガロンが150円ほどで売っており、部屋まで運んで取り付けます。無くなったらボトルを持って行って新しいものと交換します。

学部にはカフェテリアがあり、100～200円程度で食べられます。キャンパスの外では、店だと150～400円くらい、屋台だともっと安いです。外だと油ものも多く、野菜が少ないです。

ホームステイ先では、ご家族と一緒に食事をしていました。ほとんどがインドネシアの家庭料理でした。また、セメスター中は昼食用にお弁当を持たせてくれました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

ジャカルタ近辺ではBOLT!というwifiルーターを買い(3000円弱)、PCとiphoneを使っていました(BOLTは一部地域でしか使えない)。BOLTは8台までつなげられるそうです。

さらに、インドネシア用の携帯も買って電話も通じるようにしました。GrabやGo-jekなどの移動用アプリ(バイクタクシー)の認証に携帯番号が必要ですし、購入したほうが便利です。SIMカード込みで購入します。

大学にもwifiが通っていますが、時々つながらなかつたり、遅くなつたりします。

大学の図書館にあるパソコン室は、すべてMacで、私にとっては使いにくかったです。

4-4. 服装について

インドネシアでは宗教等の関係で、女性は長めの服を着ています。ミニスカートやショートパンツをはいている人はあまり見ません。学校の授業や、オフィスに行くのにサンダルや短いパンツは失礼にあたります。Dなので私も黒系のレギンスパンツをはいていることが多かったです。それと、あえてスカーフをまく必要はありません。

外は暑いですが、室内ではエアコンがかなり効いているので、上着は必須でした。

4-5. 健康管理について

気を付けたことといえば、水道水を飲まなかったこと、屋台で食べなかったこと、野菜を意識してとるようにしたこと、なるべく歩くようにしたことくらいです。特に食べ物は脂っこいもの、味が濃いもの、甘いものが多いので、栄養の偏りと食べ過ぎに注意です。また、他のインドネシア人はすぐに乗り物に乗ってしましますが、自分だけでもなるべく歩かないとすぐ運動不足になります。

中間試験、期末試験前に高熱を出したときは、とにかく寝ていました。友達が看病してくれたので大丈夫でした。

現地で売っているパラセタモールという解熱剤がよく効きました。

4-6. 保険、OSSMAの利用 * 利用実績等をご記入ください

帰国前に一度海外医療保険を利用しました。日焼けが火傷のようになってしまい、歩けなくなったので薬をもらいにいきました。

OSSMAは利用しませんでした。

4-7. 課外活動について

留学期間中を通し、ごみ問題研究のためのフィールドワークを行っていました。

9月からは個人の意識調査のため、ごみ問題に関するアンケートを実施しました。結果としては、回答者に偏りがあったとはいえ、個々人がごみについて問題意識を持っている、ということがわかりました。

また、休日を利用し、ブカシにあるごみの最終処理場や、デポック・ジャカルタのごみ銀行、ジョグジャカルタのスクナン村などを訪問してインドネシアの廃棄物処理に対する取り組みを学びました。改めて感じたのは、インドネシアは日本と違い、すべての過程で公的制度や施設が不足しているということです。マネジメントのフローを見てみても、分別がないところから最終処理場にオープンダンプしているところまで問題が山積みでした。しかしその一方で、市民の取り組みがだんだんと広がってきており、ごみ銀行やスクナン村の取り組みは素晴らしいものでした。

1月にはクニンガンという、中央ジャワと西ジャワの境目あたりにある場所を訪れ、環境啓発活動を行いました。小学校でゴミ拾い活動のワークショップを開いたり、個人運営の図書館で折り紙を教えたり、高校でごみ問題についてのセミナーを開いたり、と充実していました。小さい子供も学生も、真剣に問題に向き合って話を聞いてくれたので、非常にやりがいがありました。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

8月から「ジャカルタお掃除クラブ」というボランティア団体に所属していました。この団体は二週間に一度のゴミ拾い活動の他、イベントで啓発活動を行ったり、学校訪問をして環境教育を行っています。

私の友人関係はここから広がりました。1月末には機会をいただいて、スマトラのパレンバンお掃除クラブを訪問させていただき、活動に参加しました。

もう一つは、「めらぶてい」というNPO組織に所属していました。日本人留学生の友達も数名参加しており、学校とは違う形で交流ができました。代表の方と観光局を訪問したり、弁護士の方にインドネシアの法制度について話を伺ったことがありました。

4-9. 日本から持参してよかったもの

・日本のお菓子

あんこ、抹茶、チョコ系が人気があります。お土産などに気軽に渡せるので良かったです。

・日本の調味料

料理酒、醤油、塩こうじ、梅干し、たくあんなどを持参しました。インドネシアでも買えないことはないですが、非常に高いです。自炊するときに便利でした。

・折り紙

クニンガンというところで、いきなり「何か日本文化を紹介してほしい」ということになり、持参していた折り紙で鶴の作り方を教えました。非常に喜んでもらえました。

・秋物の上着

暑い国だからなのか、エアコンの設定温度がすさまじく低いです。夏物だけだと寒いです。

・変換プラグ

日本の型があまり売られていないので、いくつか持って行って良かったです。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

・日本で使っていた教科書、参考書

参照するかと思い、大量に持って行ったのですが、ほとんど見ませんでした。日本—インドネシア間の送料がかなりかさんでしまい、本当に必要なものだけ持っていけばよかったと思いました。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

- ・初対面では握手をする。おじぎは通じないことがある。
- ・目上の人に対しては、右手をとり上に持ち上げる、もしくはおでこのほうに持っていく
- ・左手を相手にださない(左手は不浄とみなされている)
- ・相手が時間に遅れても仕方がない。交通機関の利便性、天候、感性が異なるため。
- ・多くのインドネシア人は何かあればすぐにセルフィーや写真を撮る。笑顔で応じるのが良い。
- ・誕生日や祝いごとがあると、当事者が来た人におごる。
- ・食事は相手を待たずに食べ始めてよい。
- ・大学で、教授と議論したり意見を言ったりするのは普通。(日本のように遠慮して黙っていると意思表示してないとみなされる)
- ・友人間でも、メッセージにすぐに返信すると気があると思われる。
- ・イスラム教徒でも意識的な差があるので、お酒や豚の話は避けたほうが無難。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

- 【インドネシア・パガンダラン】2016年10月～11月(3日間)、約3500円
- 【インドネシア・バンドン】2016年9月、11月(両方日帰り)、0円
- 【インドネシア・ジョグジャカルタ】2016年12月～2017年1月(8日間)、約20000円
- 【インドネシア・ボゴール】2017年1月(日帰り)、約1200円
- 【インドネシア・クニンガン】2017年1月(7日間)、約3000円
- 【インドネシア・パレンバン】2017年1月(2日間)、約4000円
- 【インドネシア・プロウスリブ】2017年1月(3日間)、約25000円

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

授業でうまくいかないことが多く、学期中は落ち込むことが多かったです。そのときは、インドネシアの友達や日本人留学生の友達と話すのが一番でした。他には、絵を描くこと、料理、睡眠などで気分転換していました。

5. 報告

5-2. 留学先大学について(150～200文字)

ジャカルタ近郊に位置するインドネシア大学は、インドネシア随一の大学であり、全国から優秀な学生が集まっています。教授のレベルが非常に高く、授業の内容も興味深いものばかりです。学生は緑豊かなキャンパスでのびのびと勉強することができます。設備環境も整っており、図書館、食堂、コンビニエンスストア、カフェ等も利用することができます。

5-3. 留学中の様子(450~500文字)

最初の三日間は失敗ばかりで、手探り状態の中本当に不安でした。しかし、日本人留学生の友達ができ、そこから友達の輪が徐々に広がり、互いに助け合いながら生活できるようになりました。

留学中に私の柱となったのは、大学での授業とボランティア団体での活動の二つでした。

まず、大学での授業はとにかく大変でした。英語は苦手で経済学の知識も不足している中、がむしゃらにやりました。特に好きだった授業は、'Development Economics'と'Economics of Poverty'です。互いに共通する部分があり、知識が横に広がっていくのを感じました。授業はかなり実践的なもので、現実問題を見る見方を学びました。

もう一つは「ジャカルタお掃除クラブ」というボランティア団体です。留学前から知り合っていたのですが、実際に参加するとまた違う印象を受けました。メンバーはみな親切に温かく迎えてくれて本当に居心地のよい場でした。お掃除クラブがあったからこそ、インドネシア人の友達がたくさんできましたし、たくさんのお機会をいただくことができました。

一つ心残りなのは、インドネシア語があまり上達しなかったことです。これからもっと勉強しようと思います。

5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

留学前に準備をしっかりとすることです。モノや手続きについてはもちろんのことですが、一番大事なのは、自分の意識をはっきりさせておくことだと思います。留学中はしょっちゅう、「どうしてインドネシアなのか」「何をやりたくて来たのか」を聞かれます。ですので、はっきりと答えられるように準備しておくのがいいです。また、留学中落ち込んだ時、何か見失ってしまったとき、最後の頼みの綱は自分自身です。「これがやりたいからここにいるんだ」と思えば、乗り越えることができます。

次に、日本に固執しないことです。比較することも必要ですが、しすぎると適応の妨げとなります。日本での当たり前は当たり前ではありません。その国をありのままに受け入れられるようにしてください。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

たった半年でしたが、最も困難で、最も楽しい時間でした。アカデミックな知識だけでなく、コミュニケーションを積極的にとる力、人を思いやる心、異文化にとけこむ能力が身についたと思います。行く前はインドネシアのことをほとんど知らなかったのに今は本当に好きな国になりました。

将来の方向性は漠然と国際協力関係の仕事に就きたいと思っていたのですが、留学を通してインドネシアと日本の双方に貢献できるようになりたいと思い始め、また留学中に得た縁で、関連する企業でインターンをさせていただくことになりました。さらに、秋からまた半年、ボランティアとしてインドネシアに行くことが決まりました。

仲の良いインドネシア人の友達が常々言っていたのが、「一期一会」と、`the end will be better than the beginning.`です。この半年、まさにそうだったと思います。ぜひ、留学を検討されている方々にも覚えておいてほしい言葉です。